

苫小牧港長期構想検討委員会 第3回 委員会【概要版】



平成30年3月7日(水) 13:30～
於 グランドホテルニュー王子
公益社団法人 日本港湾協会

苫小牧港の将来の役割

第2回 苫小牧港長期構想検討委員会より
＜取組の方向性＞

【物流・産業】

・食関連産業の輸出、移出基盤の強化
・国際コンテナターミナルの更なる利用促進
・フェリー、ROROの内貿ユニットロード機能の更なる強化

【環境・エネルギー】

・LNGや再生可能エネルギーの導入促進などによる港湾全体での低炭素化
・エネルギーの安定供給に向けた受け入れ機能の確保

【安全・安心】

・災害発生時における港湾機能の確保
・被災地支援のためのバックアップ機能の強化
・港湾機能の信頼度向上

【観光・交流】

・海洋や港湾の機能を活用した賑わい空間の創出
・クルーズ船やフェリーによる観光客との交流機会の促進



苫小牧港の将来の役割

(1)生産性向上のための物流体系の構築

(2)北海道の戦略的産業である
「食」と「観光」への貢献

(3)北海道における物流の強靱化の推進

(4)低炭素社会の構築への貢献

(5)北極海航路の地域的ハブ機能の構築

(6)賑わいを提供するみなとまちづくり

【基本目標】

苫小牧港が我が国の発展に貢献していくために、これまで培ってきた産業集積や物流機能、様々なポテンシャルを最大限に活かしつつ、港湾機能の充実・強化を図る

【キャッチフレーズ】

～産業と暮らしを支える北の物流拠点 未来へとつなぐ 苫小牧港～

苫小牧港の目指す姿

産業と暮らしを支える北の物流拠点 未来へとつなぐ 苫小牧港

- 将来の役割(6つの柱)
- (1) 生産性向上のための物流体系の構築
 - (2) 北海道の戦略的産業である「食」と「観光」への貢献
 - (3) 北海道における物流の強靱化の推進
 - (4) 低炭素社会の構築への貢献
 - (5) 北極海航路の地域的ハブ機能の構築
 - (6) 賑わいを提供するみなとまちづくり



将来の役割を実現するための「目指す姿」と「展開施策」

【物流を未来へつなぐ】

- ◆ 生産性向上に資する複合一貫輸送拠点
 - ・ 次世代型ユニットロードターミナルの形成
 - ・ ドライバー不足に対応する陸上輸送網の構築

【食と観光を世界につなぐ】

- ◆ 北海道の「食」と「観光」のゲートウェイ
 - ・ 「フードコンプレックス」の形成
 - ・ 水産物の輸出促進のための環境整備
 - ・ 国際クルーズ拠点の形成

【安全・安心をつなぐ】

- ◆ 安全・安心な港湾機能を確保した海上輸送拠点
 - ・ フェリーバースの大規模地震対策
 - ・ 被災地救援の輸送拠点としての活用
 - ・ 既存ストックを活用したふ頭再編

【環境を未来へつなぐ】

- ◆ 環境負荷軽減に資するエネルギー拠点
 - ・ SOx規制に対応する船舶への燃料補給機能の導入
 - ・ 水素エネルギーの供給・受入施設の配備
 - ・ リサイクル資源取扱施設の整備

【北極海とアジアをつなぐ】

- ◆ 北極海航路の地域的ハブ港
 - ・ 北極海航路のアジア側におけるハブ機能の形成

【地域の賑わいをつなぐ】

- ◆ 市民と観光客がふれあう賑わい拠点
 - ・ ふれあい観光スポットの強化

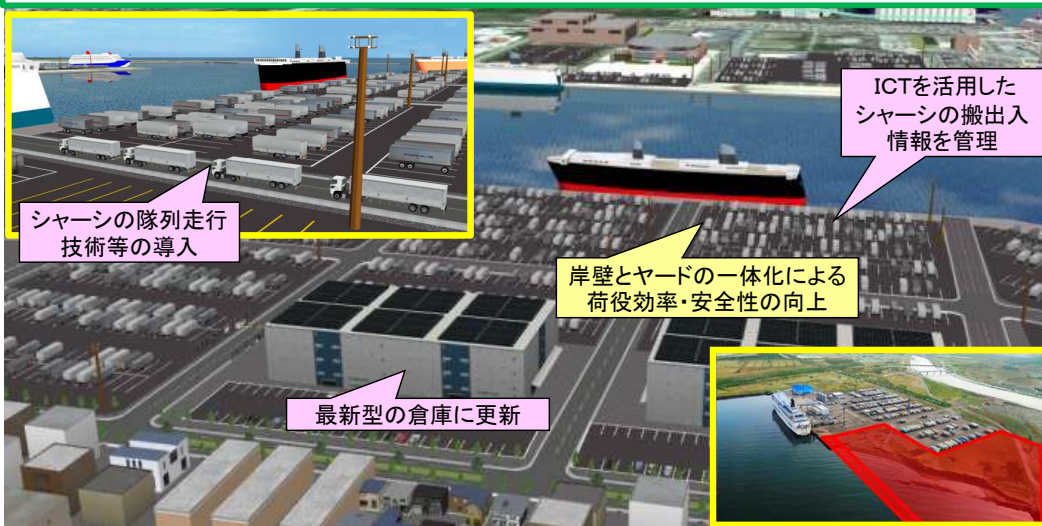
現在から 未来へ

物流 食と観光 安全安心 環境 北極海 賑わい

北海道から 世界へ

(1)生産性向上のための物流体系の構築

展開施策①:次世代型ユニットロードターミナルの形成



《整備効果》

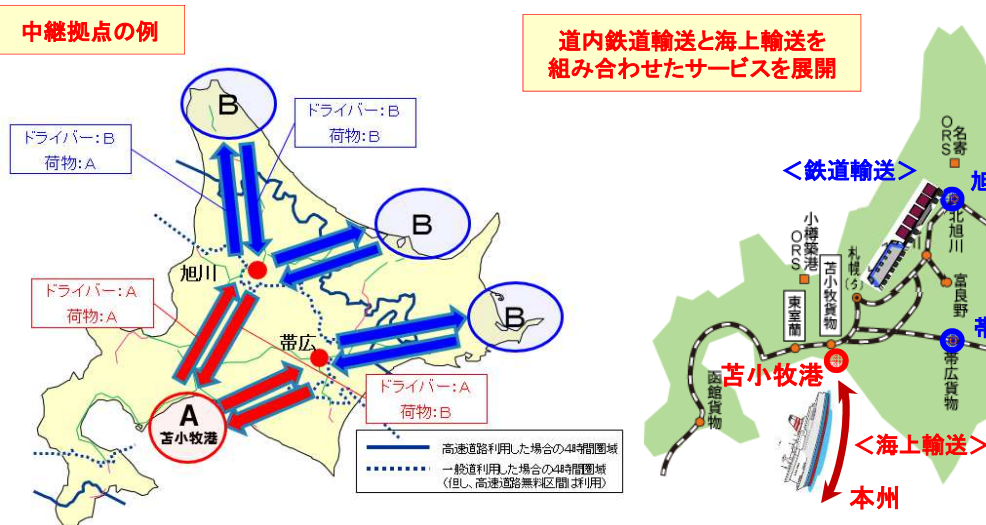
- RORO船・フェリーヘトレーラーを積み下ろしする作業コストが削減
- トレーラーの移動・管理作業が省力化され、少ない人員で対応可能
- 新規バースの整備による船舶大型化や集荷時間の拡大が可能



《整備効果》

- 船の大型化や新たな航路の就航により、コンテナの海上輸送コスト削減
- トレーラー待機時間の短縮や回送の減少により労働時間が短縮

展開施策②:ドライバー不足に対応する陸上輸送網の構築



《整備効果》

- 苫小牧港へ道内を陸送するトレーラーやコンテナの運転手の労働時間が短縮
- 道内における陸上輸送が多様化、省力化され少ない人員で対応可能



(2)北海道の戦略的産業である「食」と「観光」への貢献

展開施策①:「フードコンプレックス」の形成



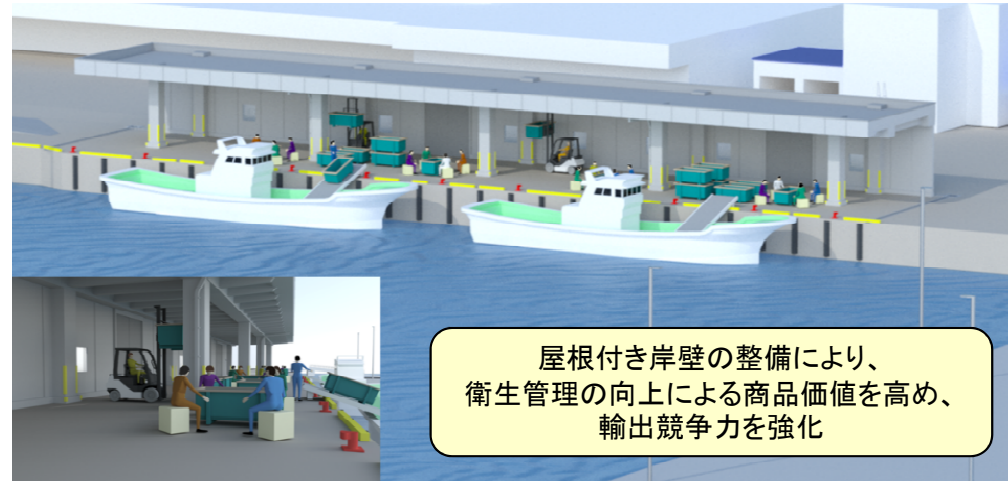
高度な物流機能と付加価値の高い食品加工機能が
一体化した食産業基地＝フードコンプレックスを形成



《 整備効果 》

- 食関連産業の国際競争力が強化され、生産額や輸出額、雇用が増加
- 食料流通の平準化や高付加価値化により生産者の所得向上が期待

展開施策②:水産物の輸出促進のための環境整備



屋根付き岸壁の整備により、
衛生管理の向上による商品価値を高め、
輸出競争力を強化



《 整備効果 》

- 商品価値の向上や輸出競争力の強化により農水産物の輸出拡大を促進

展開施策③: 国際クルーズ拠点の形成

新千歳空港を利用した
フライ&クルーズの発着など、
多様なクルーズ形態に対応可能な
旅客船ターミナルを整備



大型クルーズ船が着岸
可能な岸壁の整備

旅客ターミナルビルの整備



《 整備効果 》

- 外航大型クルーズ船の寄港により外国人
観光客の増加に寄与

(3)北海道における物流の強靱化の推進

展開施策①:フェリーバースの大規模地震対策

西港区開発フェリー埠頭における耐震強化
岸壁の耐震強化改良、背後用地の液状化対策



《整備効果》

● 苫小牧港で大規模地震が発生しても北海道～本州間の物流を維持

東港区周文ふ頭における耐震強化
耐震強化でのバース増設、背後用地の液状化対策



展開施策②:被災地救援の輸送拠点としての活用

被災地救援の輸送拠点としての活用
既存のフェリー・RORO航路、更には大水深岸壁と広大な背後用地を活用し、首都圏等の大規模災害時のバックアップ拠点に

〔バックアップ拠点の活用例〕



《整備効果》

● 首都圏等での大規模地震発生時に、被災地支援を迅速に実施

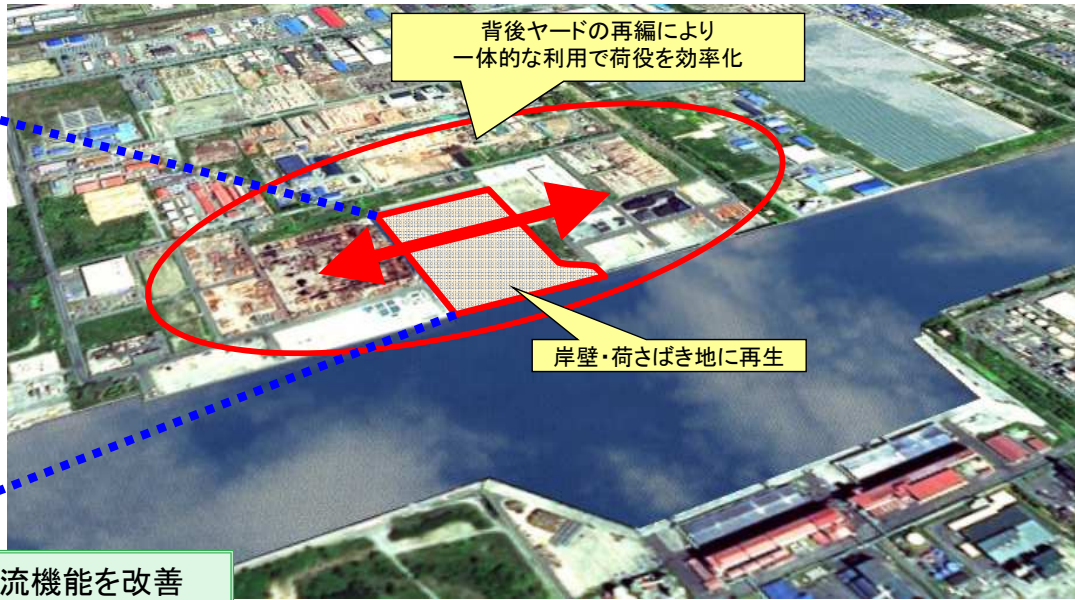
展開施策③:既存ストックを活用したふ頭再編

利用形態が陳腐化している
港湾施設を有効活用



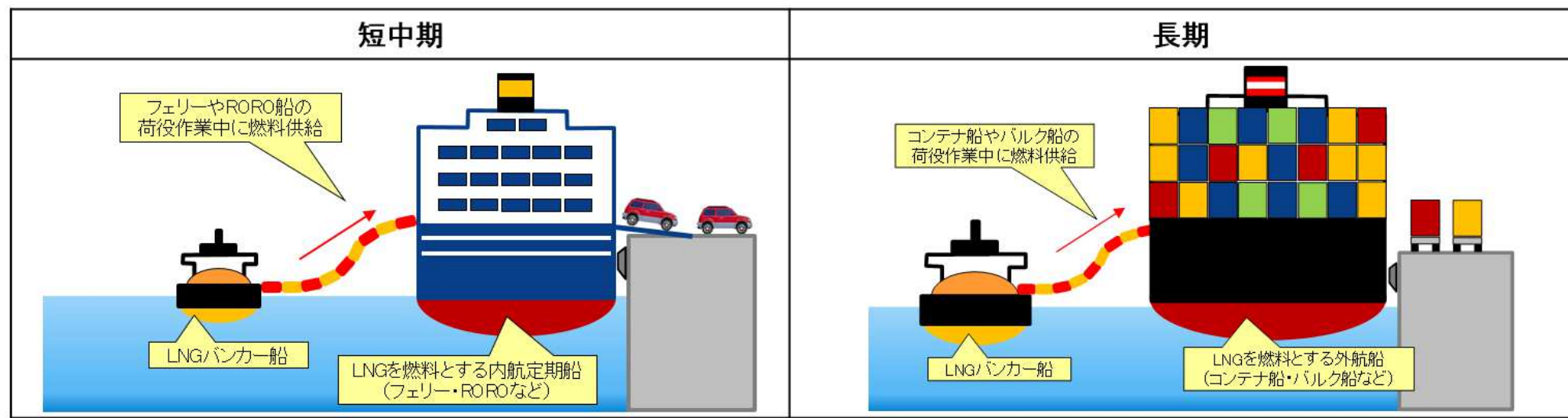
《整備効果》

● 利用形態が陳腐化している港湾施設を有効活用し、物流機能を改善



(4)低炭素社会の構築への貢献

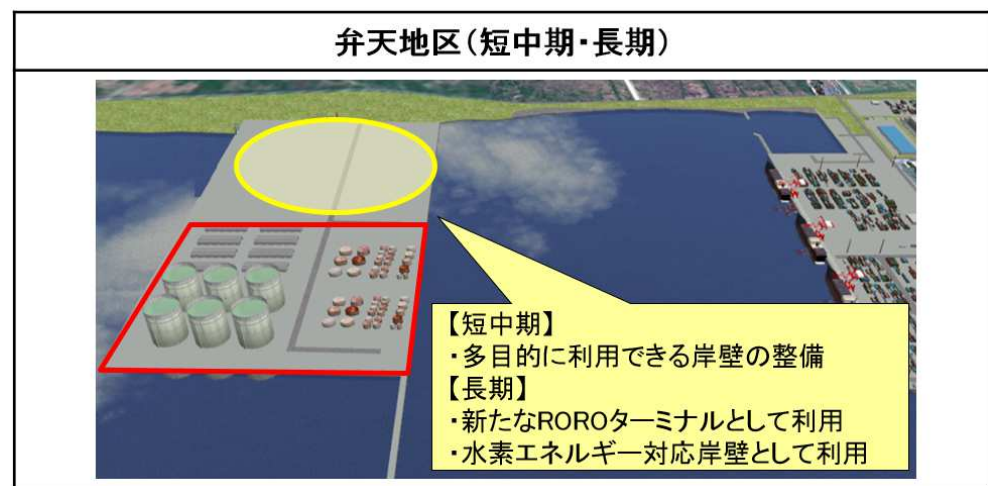
展開施策①:SOx規制に対応する船舶への燃料補給機能の導入



◀◀ 整備効果 ▶▶

- 船舶航行時・停泊時のSOx、CO2排出を削減

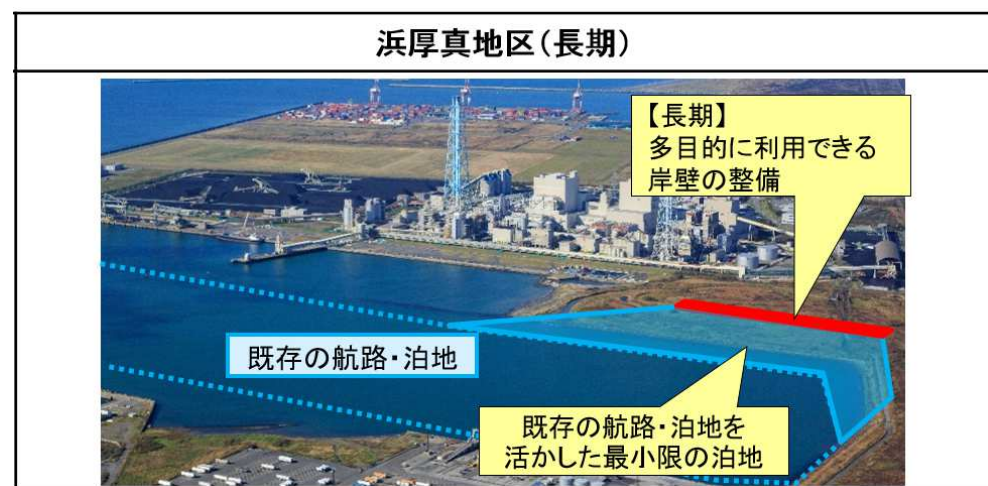
展開施策②:水素エネルギーの供給・受入施設の配備



◀◀ 整備効果 ▶▶

- CO2を全く排出しない水素エネルギーを利用する社会の実現に貢献

展開施策③:リサイクル資源取扱施設の整備



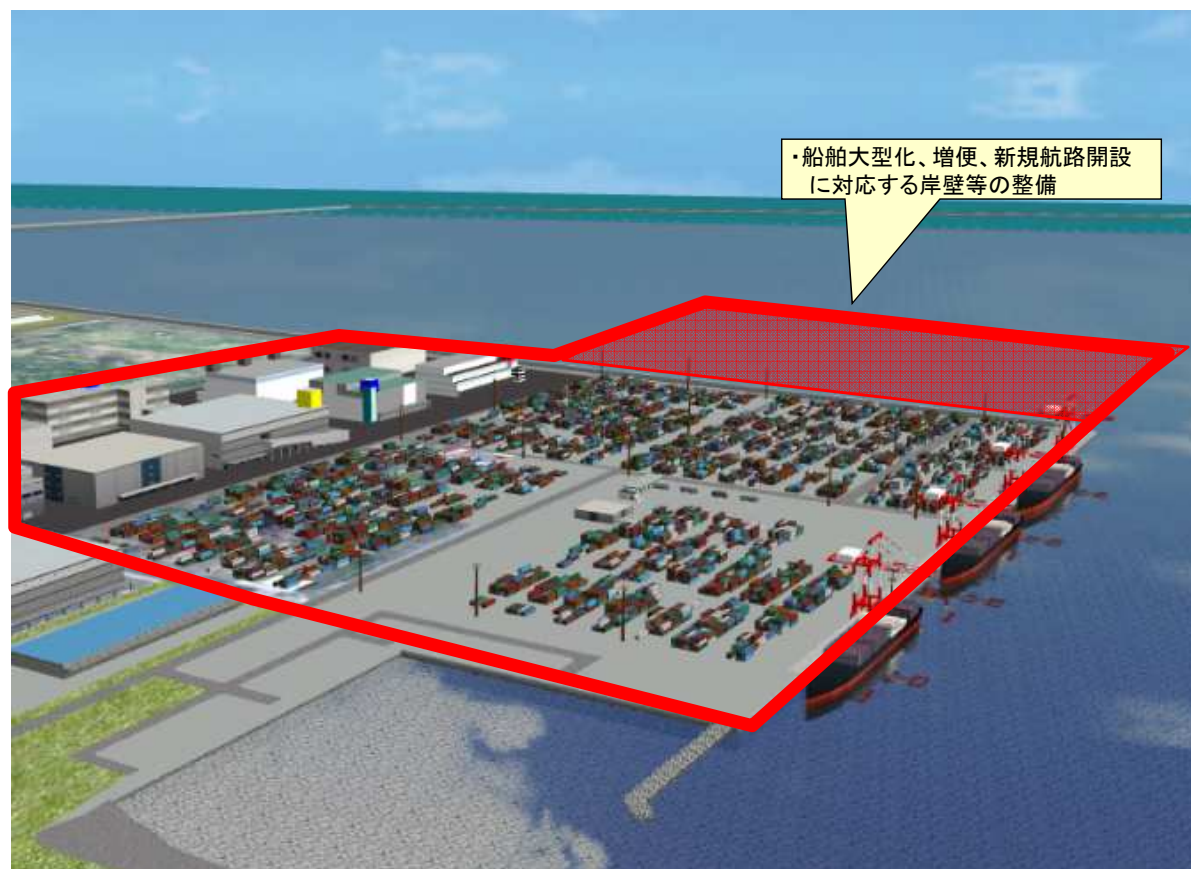
◀◀ 整備効果 ▶▶

- リサイクル資源の輸送コストの削減
- 苫東地区への企業立地の促進

(5)北極海航路の地域的ハブ機能の構築

展開施策：北極海航路のアジア側におけるハブ機能の形成

北極海航路の活用により、耐氷船と通常海域の貨物船の接続ポイント、
北極海航路と北米航路などの中継ポイントとして
国際コンテナターミナルでのハブ機能を導入



《 整備効果 》

- 北極海航路を通じた、欧州・ロシアとの貿易が活発化
- 北極海航路の中継ポイントとしてコンテナ積替作業に伴う取扱貨物の増加

北極海航路でロシア・ヤマル半島のLNG基地に資材を運ぶ
モジュール船が苫小牧港に寄港
(H29.6月)



苫小牧港に寄港した北極海航路を航行する一般貨物船
(H29.9月)



(6)賑わいを提供するみなとまちづくり

展開施策：ふれあい観光スポットの強化

キラキラ公園や漁港区、勇払マリーナなど市民や観光客が安全かつ気軽に海を楽しめる親水機能の強化



・キャンプゾーンのイメージ

(ニ石海浜公園)

・魚釣りゾーンのイメージ

(南あわじ市浮体式多目的公園)

観光客でにぎわう「ぷらっとみなと市場」

苫小牧漁港ホッキまつり(毎年10月)



- 《 整備効果 》
- 市民や観光客の親水機会の増加
 - 港湾における観光需要の創出(イベント、飲食、散策、レジャー等)